

令和7年度未来を創る学力向上支援事業に係る 「未来を創る授業力向上協議会(中学校数学)」

1 目的

各中学校及び義務教育学校後期課程の数学担当教員等を対象に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくり及び令和7年度全国学力・学習状況調査における本県の結果分析に基づいた授業改善に関する講義・説明等を通して、中学校数学科教員の授業力向上に資する。

2 主催 大分県教育委員会

3 期日 令和7年10月3日(金) 13:30~16:30

4 場所 別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ) 中会議室

5 内容

(1) 開会行事 大分県教育委員会あいさつ〈義務教育課 参事 山川 明宏〉

- ・全国調査においては、結果提供の時期が早くなったことで分析が進んでいることだろう。平均正答率全国比-3pとなった。例年同様に記述式問題の正答率は低く、無解答率も高い。説明する活動が充実している学校は全体の正答率も高い。
- ・本協議会を受けて、県内各地での数学科授業改善の推進をお願いしたい。



(2) 行政説明・協議

① 行政説明「大分県における中学校数学科の課題と授業改善」〈義務教育課 指導主事 河野 寛治〉

- ・巡回指導を行っている。県内の約50%が一人配置校となっている。

○全国学力・学習状況調査の結果から見える本県の課題について

〈教科別平均正答率〉

- ・若干全国値を下回っている。

〈低学力層の割合と全国値との差〉

- ・平均正答率40%未満の生徒の割合(52.1%)は全国値よりも5p多い
- ・巡回指導における、表・式・グラフの関連を考える関数の授業を紹介
- ・正答率のばらつきも本県の課題である。(上位層と下位層に分かれることが危惧される)

〈中学校数学〉

- ・全ての領域、観点で全国平均を下回る。
- ・低学力層の生徒の割合(正答率20%以下)が全国平均より多い。
- ・正答数が全国平均以上(7問以上)の生徒の割合は全国値を下回る。

〈「領域別」「問題形式別」大分県と全国平均正答率の比較〉

- ・R5~R7にかけて「図形」「記述式」の2つは3年間全国平均を下回っている。
- ・説明や証明を書けない生徒が増えてきている。

〈課題が見られた問題と指導の改善〉

- ・大問9(2)【県29.5% 全国36.3%】

※証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、もとの証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切。

- ・繰り返し、意図的に授業の中で意識して取り組んでいただきたい。



〈問題別調査結果〉

※大問 1、大問 6 (2) (3)、大問 7 (2)、大問 8 (2)、大問 9 (3) より

- ・数学の用語の意味の理解に課題がある。
- ・事柄・事実、方法・手順や理由を説明することに課題がある。
- ・H31 年度調査では記述式問題において無解答率が全国より低い状況だった。
→コロナ、ICTの有効活用（リアルな学びを支えるデジタル）

〈記述式問題について〉

- ・調査問題の類題を、数学問題データベースで配信中（解答・解答類型付き）

〈「数学の問題で説明する力を伸ばす基本形」について〉

〈問題別（解答類型別）調査結果について〉

- ・素数に 1 を含めている生徒も多くなっている。（基礎・基本）

〈全国調査の問題から〉

〈「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて〉

- ・改善の重点に示しているように、単元全体を見通しての授業改善を行ってほしい。
- ・数学的に考える資質・能力の育成を目指してほしい。

② 協議「図形の性質を考察する場面において大切な資質・能力を育成するためには、単元の中で

①「学習を見通し振り返る場面」 ②「グループなどで対話する場面」

③「生徒が考える場面」 ④「教師が教える場面」 をどのように組み立てていけばよいか」

（10 分間個人で授業構想、20 分間グループ協議） ※全国調査 大問 9

- ・作成した単元計画例をもとに、各時間においてどのように 4 つの場面を組み立てるかを協議

③ おわりに

○数学教員向けワンポイント動画について

○【グループで情報共有】本協議会の内容を市町村内、校内においてどのように還元を図っていくか

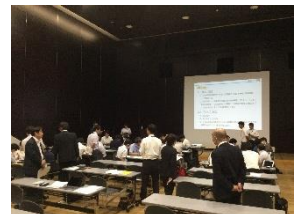
○数学的な見方・考え方を働かせた数学的活動を通して学習を展開することについて

→算数・数学の問題発見・解決の過程を意識しつつ、生徒が目的意識をもって遂行できるようにすることが大切。

○全国調査「生徒質問調査」より

→全国正答率を上回る学校と下回る学校のデータを比較

→肯定値が高い学校ほど正答率も高い。



（3）講義「中学校数学科における『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善」

〈講師 文部科学省 初等中等教育局 視学官

初等中等教育局 教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所 教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官・学力調査官

水谷 尚人 氏〉

○学習指導に当たって

- ・証明の方針（言えていること・どうしたらいいだろう・言いたいこと）をつなげていくことが大切
- ・白杵市立西中学校：秦先生の授業から「2 年 一次関数」

→前時までに学んだことを振り返りながら、なるべく先生の助けを借りないでできる生徒が増える
とよい。単元計画が大切。

→主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることも併せて大切にしてほしい。

生徒に意欲を持たせる仕掛け（驚き・不思議・予想）が大切「自分事として考えてみたいな」

→班で話し合ったり聞いたりする視点を示す◎

→課題を示した後に、発問し直し◎（生徒の様子を見て）

→全国調査問題のエキスを汲み取っていただき、日々の授業の要素として意識してほしい。

→教科を問わず、近くの先生とまずは互見授業から始めましょう（長所を取り入れてほしい）

○全国調査 大問6より

- ・実践協力校（千葉県の中学校）の授業を紹介「連続する3の倍数の和」
- ・自分ならこの問題をどう教えるかを考えてほしい。
- ・問題を見出す（思判表）→「どんなことが言えそう？」という発問が大切。

○次期学習指導要領に向けた基本的な考え方

- ・自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手育成
→正解主義や同調圧力への偏りから脱却し、独自の発想や視点に価値が置かれる。
- ・基盤となる考え方 ～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化していきましょう～
→①深い学びの実装 ②多様性の包摂 ③実現可能性の確保
→多様な子どもたちの「深い学び」を確かなものに
- ・全国調査の問題より
→計算問題はできるが、文章題になるとできない生徒（文章が読めない？）
→文章から情報を取り出して立式する力が不足している（H28）
→小学校算数のはかりの目盛や10%増量、果汁40%の問題を紹介（数学との関連）
→実際の事象に戻して見直す（吟味）できる力を大切にしたい。
→誤答を予想することを大切にしてほしい。
→わからないと言えない生徒たちを見逃さずに大切にしてほしい。

- ・各教科等での検討イメージの実際

○主体的に学習に取り組めるように「粘り強さ」「自己調整」が重要

○学習評価の現状と課題（前回改訂時からのお残る課題）

- めざす資質・能力を適切に反映した評価になりにくい現状がある（改善のイメージを提示）
- 学びに向かう力・人間性の「評定せず」は「評価せず」でならないことに留意してほしい。

※文科省 サポートマガジン「みるみる」の紹介

○謝辞（中津市立緑ヶ丘中学校 恒賀教諭）

- ・「吟味できる子どもたちに育てていかなければならない」という言葉に言及し、実生活に即した問題に対して、疑問をもつことの重要性を自身の授業経験から感じた。
- ・生徒に意欲をもたせる仕掛けとして、教材研究の重要性を再認識した。



（4）閉会行事

- ・各地域で本協議会において学んだことの環流を。